

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長淵2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

主のお招きをいただいて

荘長 深山 祐



を受け、以来、皆さまのお祈りに支えられて今日に至っております。

荘との出会い

昨春秋、真壁巖西東京教区議長、また長崎哲夫教団総幹事より、「にじのいえ信愛荘」のお世話をするようにとのお電話をいただきました。まったく思ってもみなかったことでした。

長年、一般の学校に勤務していたため全力を注げなかった教会のために、残された地上の時間をキリストのからだなる教会を形づくるようにとの主の召しを新たにしていた時でした。けれども、祈ってゆく内に、教会に仕え「にじのいえ信愛荘」にも仕えることが神のみ旨であるとの思いが深まり、両先生からの二度目の促しをいただいた後、長老会にかけ、その務めにふさわしくない者であることも十分承知の上、お引受けいたしました。前任の有馬歳弘荘長から引継ぎ

荘のクリスマス礼拝の当日、緊急入院された加藤實牧師とお会いしたのは、数日後のことでした。延命治療を受けない選択をされた加藤牧師は、少し緊張して病院にお伺いした私を、温かくほほ笑んで迎えてくださいました。鈴夫人も同様でした。以来、2ヶ月余り、加藤牧師とは病院でお会いするたびに、変わることはない温かいほほ笑みをもって迎えてくださいました。

主なる神の召しに従い、与えられた国内外の地で教会と人に長年仕え、今、地上での最期の時を迎えようとしておられるひとりの先輩牧師の祈りの手に私の手を合わせるようにして祈りをささげました。主にある死とは斯くありなんと、天父の許に召されてゆく様子をしっかりと

見させていただきました。「あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生涯の終わりをしっかりと見て、その信仰を見倣いなさい。イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。」（ヘブライ人への手紙13：7-8）

3月1日の主日早朝、召された加藤實牧師に続いて、藤田小枝子さんが31日朝召されました。月の初めと終わりに、神はお二人の荘員を御許にひき給いました。ご令息の藤田義哉牧師夫妻が荘を訪問し、楽しい語らいの時をもたれた翌日のことでした。小枝子さんは、数日前、荘のイースターにて賛美する合唱の練習後、転倒されたとお聞きしておりましたので、前日の昼食時、部屋から食堂のご自分の席に着かれる前に、小枝子さんに身体のお具合をお尋ねしましたら、「大丈夫、歳を取って転びやすくなつて」と、しみじみと話されました。亀土郎牧師と共に入荘され、ご夫君亡きあと、10数年間、荘にて祈りつつ平安な日々を送っておられました。

（西東京教区国分寺南教会牧師）

「わたしの主、
わたしの神よ」

ヨハネによる福音書

20章24～29節

西東京・狛江教会
牧師 岩田 昌路



「わたしの主、
わたしの神よ」
弟子のトマスが
復活の主の御前
において告白した言葉です。ヨ
ハネによる福音書は、トマスの
口を通して、主イエス・キリス
トを独り子なる神、神に等しい
方、神ご自身であると告白する
のです。私たちもその告白する

ことへと招かれています。

トマスは、復活の主がはじめ
て弟子たちに現われてくださっ
たとき、なぜか不在でありまし
た。トマスは他の弟子たちから
「わたしたちは主を見た」と聞き
ますが、その言葉をすぐに信じ
ることはできませんでした。八
日の後、復活の主が再び弟子た
ちの群れに現れ、「あなたがたに
平和があるように」と祝福の挨拶
をされました。そして、トマス
にまっすぐに近づいて、語られ
るのです。「あなたの指をここに
当てて、わたしの手を見なさい。
また、あなたの手を伸ばし、わ
たしのわき腹に入れなさい。信
じない者ではなく、信じる者に
なりなさい。」トマスはもう主の

手にさわり、わき腹にさわるこ
とは必要ありませんでした。主
イエスの確かな愛と赦しに触れ
たからです。

トマスは、疑い深いトマスと
呼ばれます。疑い深さは私たち
にもあります。しかし、ヨハネ
による福音書が伝えることは、
疑い深いトマスが、復活の主に
よって「わたしの主よ、わたしの
神よ」と告白する者へと変えられ
たということです。それは復活
の主が現れてくださり、語りか
けてくださることによって起こ
る出来事なのです。トマスは主
の弟子たちを代表し、教会を代
表するように、復活の主をまこ
との神として礼拝し、その信仰
を告白する者とされたのです。
ここに代々の教会の信仰告白の
歴史が始まっています。

主イエスは「わたしを見たから
信じたのか。見ないのに信じる
人は、幸いである。」と語られま
した。「わたしを見たから信じた
のか」は、実際には「あなたはわ
たしを見て信じた」との事実を告
げる言葉です。「トマスよ、お前
はわたしを見て信じた。それで
よい。しかし、これからは、わ
たしの復活の体を見ずして信じ
る幸いに生きるのだ。あなたた

ちの言葉を聞いて信じるものた
ちもその幸いに生きる。」復活の
主はそのような約束をあたえて
くださったのです。その約
束は私たちに実現しています。
今、私たちは見ないのに信じる
人とされています。そして、伝
道の業によって、見ずして信じ
る信仰に生きるものが起こされ
ます。教会は今も生きておられ
る復活の主の御業を大きな驚き
をもって目撃させられる共同体
です。だからこそ教会はいつで
も復活の主の約束が確かである
との大きな喜びに生きることにな
ります。

2015年4月7日 (火)

第一部 礼拝

司式 深山 祐
奏楽 岩田めぐみ

前奏
頌主の祈り
交読詩編
聖書

542

16編

ヨハネによる福音書
20章24-29節
司式者

祈禱
讃美歌
説教

152

「わたしの主、わたしの神よ」
岩田昌路牧師

祈禱
讃美歌
使徒信条
聖餐式

497

司式
配餐

205

讃美歌
献金感謝
祈禱
頌祝
後奏

541

岩田昌路牧師
伊藤地塩 吉川幸子
嶺澄子 柏井雅子
古川英子

説教者



祝会のスピーチから



礼拝の後、ホールにおいて、松村誠一施設長の司会によって、祝会が開かれました。

参加62名、深山祐荘長の歓迎の辞、聖歌隊の賛美、来賓祝辞、ピアノ演奏、美味しいお食事、参加者紹介、等復活の主のお守りの内に、和やかな時が流れました。



神さまは素晴らしい、み翼のかげに守られて、導かれて、ただ感謝！



今日ここへ来ることができて良かったです。



ここにきた時、管理人の菅原さんに富士山に連れて行ってもらいました。



主人は信愛荘がとても気に入っていました。

93歳一番長齢です。昨年まで説教の御用をしてきました。



こんなに素晴らしい隠退ホームはない、絶対だと思います。毎日の食事は美味しい。ほんとに感謝ですね！



わたしの家族は、にじのいえ信愛荘です。



夫（柏井牧師）は、5か月間入院後、退院して、今静養中です。



今日で3年目になります。見た目は元気です。



いつも、奏楽をさせていただいて生きがいです。感謝！



動脈瘤の手術をして、なんとか命をつないでいます。



共同体の中で過ごさせていただいていることが、主にある希望で、励まされています。



信愛荘設立3年後主人の両親が入れていただきました。当時バス通りから信愛荘が見え、木造二階建てで、通りに面して玄関がありました。鶏の声やカエルの声も聞こえました。二人ともここで召され、夫も共に小平霊園にいます。



楽しくすごしています



こよなく「にじのいえ信愛荘」を愛する人になりました。



藤田小枝子さんと一緒に過ごすことができて、感謝でした。



故 加藤 實師
2015年3月1日 召天

主に望みをおく人

イザヤ書40章27、31節
小倉 和三郎

東京神学大学同期の親友、加藤實牧師は、身長が並外れに高かっただけでなく、生き方と行動も桁外れのところがあつた。卒業後、神奈川県内の二つの教会を牧会したが、彼の心の目は中国大陸を眺望していた。牧師を志した時から中国伝道が彼の心だつたからである。

1968年に香港の日本人クリスチャン・フェロウシップに牧師として赴任する機会を得たことは、幻を実現する端緒だつた。彼は次に台湾に渡り、初め台北に住み、2年後淡水に移り、当時弾圧の試練にあつた台湾長老教会の試練を身近にしながら、中国伝道の機会を待ちつつ備えていた。彼の愛唱聖句は「人は心に自分の道を考える。しかしその道を導く者は主である。」(箴言

16・9口語訳である。彼はこの聖句の通り、自分の使命実現を主なる神に委ねて待った。

14年の台湾伝道を終えて帰国した後、片瀬教会と信州教会を牧会した。彼は還暦を越え62歳になった時、遂に幻が実現するに至った。1996年、NCCと中国教会との連携により合肥連合大学に日本語教師として赴任する機会を与えられた。同大学で3年間勤務の後、南京の師範大学に2年、さらに武漢の华中師範大学で5年、日本キリスト教団の宣教師として奉職して、現地の学生たちとの交流を深め、中国の教会の働きに参加することができた。

或る日、彼は合肥の博物館で、日中戦争中に日本軍が南京市民を大量虐殺した記録写真と証言集に釘付けになった。そして彼は被害者たちとその家族の生々しい証言を翻訳して出版しようと決意した。2年を費やして完成した後、更に戦争中に南京に在住した宣教師たちの証言集の翻訳にも取り組み、ついに完成した。健康に恵まれない70代に至つた彼は、文字通り老躯に鞭打つて、この偉業を達成し、幾多の妨害を克服して、「この事実を」と「この事実を②」の2冊を出版

することができた。この努力の結晶は、日本人の戦争責任を風化させないためと共に、牧師として、主なる神に対する同胞の罪責を自らが負いつつ証しする信仰的な使命を果たすためであつた、と私は受け止めている。

なお、加藤實牧師の破天荒な歩みと稀有な成果は、50年間も彼に寄り添い支え続けた鈴夫人の存在無しには考えられない。

(日本基督教団隠退教師)

その歩みを導く者は

主である

加藤 鈴

受難節の半ば、本人の誕生月をも待つかにように、夫加藤實は約2ヶ月半の点滴のみの闘病を終え、3月1日の早朝安らかに神のもとに召されました。

「にじのいえ信愛荘」に入荘後二度目の肺炎でのことでした。

「牧師と医者とは信頼しなければいけない」と言うのが彼の Motto でしたから、入院中はお世話くださる皆さんに従順で微笑みを持ってお礼申し上げ、皆さんから愛して頂けたことは、介護している私にとってもなんと幸いなことかと安堵しました。

新婚の伝道師とその妻の初陣の地は平塚教会でした。主任牧師ご夫妻、皆さんに温かく育てていただけ期間でした。日本では、その他、二宮、片瀬、信州教会に仕えました。説教準備にとても時間が要る人でしたので若い時は徹夜も始終あり、週末来訪者があると私は嬉しさ半分心配半分でした。

香港、台湾、中国での働きには、その都度「支える会」が結成され、その背後には何と多くの方々のご奉仕とお祈りとご献金の応援があつたことでしょう。先日夫の大切な荷物の中から、皆様からの「郵便振り込み支払書」の写しの分厚い束が何冊も出てまいりました。お一人一人のお名前、短信を再び拝見しつつ、感謝でいっぱいでした。共に支え歩んでくださった皆様、本当にありがとうございました。

最後まで意識がはっきりしていたので、繋いだ手からイエス、ノウの返事を貰つたり、『生かされてる間、それで生きる』等、密な意思疎通ができた2ヶ月半最も恵み深い時を頂きました。

加藤實は真摯に考え計り努力する人でした。しかし、最後は自分の願いとは違つても、きつぱり主の導きに從つて歩んだ人

だったと思います。強くて優しく、晩年はそれに加えて微笑みの人でもありました。52年半加藤實と共に歩ませて頂いたこと、神さまに心より感謝いたします。

* * *



故 藤田小枝子氏
2015年3月31日 召天

藤田小枝子葬儀式辞

東京神学大学名誉教授
玉川平安教会牧師
山口 隆康

私たちの主にある姉妹、藤田小枝子姉は、受難週の朝、私共の教会の祈禱会が終わる時刻に主のもとに召されました。その地上の歩みは91年10ヶ月と1日、ここにおられる方は、神の救いの歴史の中で藤田小枝子姉と出会ひ、共にその道のりを歩き、共に御言葉に聞き、共に祈り、地上での歩みを共にした者たちであると思います。この葬りの日に、神の救済史の中の藤田小

枝子姉の姿を思い描きます。若き乙女の姿、初めての子供が生まれた日の喜びの笑顔、教会堂で祈る姿、夫と共にこの信愛荘にやってきた日の姿、そのようなキリスト者として福音を生き抜かれた姉妹の姿を想起し、心の深奥に記憶したいと思います。そして姉妹が全生涯をもって語りかける言葉をしっかりと受け止めたい。それが葬りの日に集められた者たちの務めであると思います。

藤田小枝子姉は1923年、あの関東大震災の年、牧師である父石川明二牧師と母キクの間、に4人の二番目の長女として鳥取で誕生、そこから始まる生涯を改めて振り返りますと三つのステージ(期間)に区分できます。第1期は誕生から結婚までの35年間。この第1期に小枝子姉が生活した地名を読み上げますと、鳥取で12年、柏崎で3年、神奈川県国府津で2年、千葉県佐倉で5年、東京で7年です。35歳で藤田亀土郎牧師と結婚するまでは、父母が牧会する教会の牧師館での生活でした。第1期の生活が「緊張感のある牧師館生活」として書き残されています。幼少時代に牧師の子供として受

けた「虐め」を快活に振り返っておられます。さらに強い緊張は、純粋な信仰を戦時中に貫く父母の傍らで過ごした弾圧時代の記憶です。牧師館の記憶と、小枝子姉の結婚に至るまでの生活の記憶は結びついています。牧師館で生まれ、牧師館で育ち、牧師館で生きた人です。キリスト者として生きていく時代、嵐の中を神信頼だけで生き抜こうとした両親と子供たち。父石川明二牧師は東京大空襲の中で召されました。その後、母のキク牧師は佐倉教会牧師となり伝道者の生涯を貫いています。小枝子姉は父母の姿を受け継ぎ、藤田亀土郎牧師と結婚、人生の第2期が開始します。三つの教会で38年の牧師館生活、三重県尾鷲教会で12年、秩父教会で16年、息子の藤田義哉牧師が語る尾鷲と秩父の話はいつも明るく前向きです。そして埼玉菖蒲教会で10年、三つの教会で38年、牧師の妻として見事に生き抜かれました。第2期は1996年の亀土郎牧師の現役隠退で終わります。そして信愛荘での第3期、19年間の静かな生活が始まります。小枝子姉は信愛荘で2年4ヶ月を夫と共に過ごされます。

それから16年がラストステージとなりました。姉妹は、それまでを振り返り印象深い証言を残しています。第1期、第2期の生活を「戦う教会」「聖徒の忍耐」、すなわち苦難の中で純粋な信仰を貫くための地上の戦いとして捉えています。ところが第3期になって遺している証言は違います。夫と共に信愛荘に入り夕映えの季節が始まります。先に夫が眠りにつき、さらに夕映えの季節を歩む中で自分の中で変化が起こった。神の栄光の教会は地上の戦う教会を終えた者たちが召されると思いこんでいた。違うのではないか。戦う教会と栄光の教会は断絶においてではなく連続においてとらえるべきでないか。地上にありながら、私たちは平安の中で栄光の教会に与ることが赦されている、と証言しています。姉妹は伝道する生涯を見事に走りぬき、甦るための眠りに就かれました。私たちは信じています。私たちの主イエス・キリストにお会いする時が来る。姉妹はこの事をしっかりと受け止めて眠りにつかれました。私たちもキリストにお会いするための歩みを続けましょう。アーメン

近況報告

施設長 松村 誠一

「にじのいえ信愛荘」の一日は礼拝で始まります。礼拝当番は荘員の皆さんの持ち回りです。お祈りの中で皆さんが触れられるのは、新しい一日を迎えられること、日用の糧を与えられていること、「にじのいえ信愛荘」を祈りと献金で支えていただいている全国の教会と信徒の皆様への感謝の言葉です。

この半年はいろいろなことがありましたが、日々平安の内に過ごすことができました。感謝申し上げます。

荘の財政は、その必要の3分の1を献金などで支えられております。財政的に厳しい現状を踏まえ、運営委員会では、苦渋の決断として荘費の値上げを決定し、本年4月から実施しております。

荘に戻ってこられた仲間

・山添和加姉は、昨年7月に転倒骨折で入院されましたが、「荘のおいしい食事が食べたい、荘員の皆さんに会いたい」との祈り

が聞かれ11月に戻られました。

・柏井宣夫師は、8月に带状疱疹で入院されましたが、三つの病院で半年の闘病の末、本年2月に戻られました。

・高崎ワカ姉は昨年9月に退荘されたが、「やっぱり、にじのいえ信愛荘がいい」と4月より戻られました。

退荘された方

・黒田愛子師は、12月に退荘され、現在は梅の園におられます。

・長谷川淳子師は、昨年3月入院以来懸命にリハビリに励まれましたが、残念ながら12月に退荘されました。

・浅野悦昭師は、昨年9月、誤嚥性肺炎で入院されましたが、退荘されて入荘前にいらした十字の園に戻られました。

召天された方

・加藤實師は、昨年12月22日に入院以来、鈴夫人の懸命の看護に見守られて、3月1日召天されました。

・藤田小枝子姉は、3月31日早朝召天されました。前日までお元気でご子息夫妻の訪問を受け、夕方玄関まで見送られたその翌朝のことでした。お二人の生前を偲び、謹んで哀悼の意を表し

たいと思います。

荘での行事

・クリスマスとイースターには大勢の方においでいただき、礼拝と祝会を守ることが出来しました。それぞれの参加者は62名でした。

その他、毎月のお茶の会は荘員の皆様が大変楽しみにしています。誕生会も昨年より、荘員の皆さんと、厨房を含むスタッフ全員と共に祝っています。



◆自己紹介

時になつて美しい

千葉寿賀子



昨年10月から入荘いたしました。1月1日で92歳になりました。衰え、物忘れも多い私ですが、荘の方々が「一緒に生きていきましょう」という姿勢で接してくださり、心安らかに過ごさせていただいております。

東長崎ウエスレー教会の方々や、教会の牧師である娘牧子（小林）も毎週のように訪れてくれることも楽しみの一つです。

故千葉温牧師と共に過ごした日々も、主の恵みと信仰の友によつて支えられていたことを思います。ここ「にじのいえ信愛荘」では「神さまのなされることは皆その時になつて美しい」という御言葉が生きて働いているように感じられます。緑の木々と小鳥のさえずり、信仰の友…。荘の方々をはじめ、全ての方々の思いに勝る平安を神さまが与えてくださっています。

私も一歩一歩、神の国に向つて前進出来たらと祈る思いで筆を置きます。

（牧子記）

新運営委員

新米運営委員長です



運営委員長
鈴木 功男
(東京・目白教会)

この4月、選ばれて運営委員長をつとめさせていただきます。振り返ってみますと、2008

年10月第36教団総会で、「センター明確化委員会」が設置され、委員として関わりを持つようになりました。当時17のセンターは教団のセンターとされながら、それぞれの歴史的背景から責任体制が明確ではありませんでした。

「そんなのは無理だ」と言われましたが、2012年7月10日の常議員会で「教団センター設置規則」制定に至りました。

「にじのいえ」と「信愛荘」の合併は、日本伝道150年記念事業として象徴的な出来事でした。

「東京教区老人ホーム委員会」と称していた時代から半世紀にわたる先輩諸兄姉の努力と、「全国教会婦人会連合」の献身的な業が整えられた姿は、まさに主のご恩寵を証しています。

先日、イースター礼拝のあと

の愛餐会で、荘での様々な思い出話が語られました。

お一人おひとりのお話しは、どなたも、なかには悲しい別れのお話しではあっても、まるで主の園、主の牧場の羊のように、楽しいやすらぎを感じさせてくださるものばかりでした。

聞いていた私は「にじのいえ信愛荘」は建物ではない！と、つい感嘆の声が出てしまいました。

ここは、主の園に違いのないと思いました。確かに、目に見える建物、施設であることには違いない。働く人たちも仕事として欠くことのできない役割を以て働いてくださっています。

何よりも、主のみ言葉の伝達者、牧会者として尽くされた先生方の安らかな園であるからこそ、このセンターとしての存在が期待されているのだと、いまさらのように感じさせられました。

これまで、センターの周辺での関わりに過ぎなかった者が、委員長としてお仕えることになりました。新米委員長ですが、よろしくお願いいたします。

新運営委員



黒沢 咲子
(東京・下谷教会)

この度、新しく運営委員を拝命いたしました。「信愛荘」時代の機関紙「青梅のたより」から引続き「青梅のにじ」の編集委員として折にふれ、荘のご様子を伺いつつご奉仕してまいりました。小さな力ですが、入荘の皆様の日々の平安を祈りながら、これからも広報を担当させていただきます。



遠矢 良男
(東京・富士見町教会)

私は富士見町教会の会員で、父母に導かれて連なるようになりました。今は家族共々、礼拝に加えられております。この度は、新たな働きのお機会を与えられた恵みに感謝し、奉仕に励みたいと思います。財務を担当いたします。

予告 チャリティコンサート

日時 11月7日(土) 午後2時
場所 青山学院大学
ガウチャー記念礼拝堂

演奏

トランペット 山本 英助氏
オルガン 湯口 依子氏

山本英助氏は、南西ドイツフィルで15年間首席奏者として活躍。ソロ活動ではとくにオルガンとの共演が多く、その音色は実に温かく、アドベントを迎える季節のコンサートとしてクリスマスの名曲の数々を聴かせてくださることでしょう。共演される湯口依子氏は、芸大オルガン科卒・大学院終了、ドイツ留学を経て演奏活動が続けながらオルガニストとして教会に仕えておられます。トランペット奏者は、それほど多くはありませんし、身近な楽器として知られていないかもしれません。先ずは是非お越しください。きつとトランペットファンが沢山生まれることでしょう。

昨年のチャリティコンサートでは166万円をお捧げでき、心より感謝し報告いたします。

(募金小委員会 西村佳子)

莊日記



施設長 松村 誠一

●2014年11月

1日(土)東支区壮年会(8名)
3日(月)スタッフ会

8日(土)チャリティコンサート(莊員6名スタッフ3名)

14日(金)第一回クリスマス準備会

19日(水)第二回クリスマス準備会

20日(木)井上医院健診(インフルエンザ予防接種)

23日(日)靈南坂教会来訪(6名)

24日(月)誕生会・相談会

25日(火)山添和加姉退院

27日(木)運営委員会

●2014年12月

1日(月)スタッフ会、食事改善検討会、お茶会(27名)

5日(金)第三回クリスマス準備会

12日(金)第四回クリスマス準備会

15日(月)相談会

16日(火)東京聖書学校来訪

18日(木)井上医院健診

21日(日)運転手岩浪清兄青梅総合病院入院

22日(月)クリスマス礼拝・祝会62名

加藤實師青梅総合病院入院

23日(火)青梅キリスト教会キャロリング

リング

24日(水)青梅教会キャロリング入院中の莊員クリスマス問安

29日(月)有馬歳弘莊長送別会

辻哲子師宿泊ボランティア

30日(火)阪口和美委員宿泊ボランティア

黒田愛子師・長谷川淳子師退任

●2015年1月

1日(木)深山祐莊長就任

5日(月)お茶会(22名)・浅野悦昭師十字の園へ転出

7日(水)運転手金源基兄採用

11日(日)国分寺教会3名来訪

13日(火)スタッフ会

21日(水)婦人会連合会東北教区委員3名来訪

22日(木)井上医院健診

26日(月)誕生会・相談会

29日(木)防災訓練

●2015年2月

2日(月)スタッフ会・お茶会(26名)

第一回イースター準備会

予算打合せ会

4日(水)柏井宣夫師退院

9日(月)食事改善検討会

18日(水)第二回イースター準備会

19日(木)厨房・食堂の害虫駆除

井上医院健診

23日(月)誕生会・相談会

第三回イースター準備会

26日(木)運営委員会

●2015年3月

1日(日)加藤實師召天

2日(月)スタッフ会

6日(金)加藤實師葬儀

16日(月)食事改善検討会(日本給食・鈴木運営委員長・深山莊長)

19日(木)井上医院健診

20日(金)漏電検査

22日(日)第四回イースター準備会

27日(金)原町田教会来訪(11名)

30日(月)誕生会・相談会

31日(火)藤田小枝子姉召天

●2015年4月

1日(水)高崎ワカ姉入莊

2日(木)藤田小枝子姉葬儀

4日(土)春の植栽

6日(月)厨房の冷凍冷蔵庫購入

7日(火)イースター礼拝・祝会62名

9日(木)日本給食と食事改善検討会

12日(日)墓前礼拝

13日(月)スタッフ会・お茶会(25名)

16日(木)井上医院健診

21日(火)防災設備点検・防災訓練

27日(月)誕生会・相談会

なお、前回の莊日記で紹介した日曜ボランティアの方々以外に、吉田和子姉、関口朝子姉にもご奉仕いただいています。

あとがき

第11号「青梅のにじ」を皆様にお届けします。

「にじのいえ信愛莊」となつて、はや5年の月日が経ちましたが、莊の生活は変わることなく、朝の礼拝で一日が始まります。しかし莊の中では、莊長の交代をはじめ、在莊者の入退任もあり、3月には相次いで加藤師と藤田姉が天に召されました。皆様方には、時に体調がすぐれない中であつても、ご執筆に協力くださり、編集部を支えてくださいました。心より御礼を申し上げます。

さて、3月までは在莊者数の減少が続きましたため、このホームを知っていただくために、運営委員会では、「隠退教師を支える運動」・年金局通信「よろこび」や「教団新報」に入莊案内の記事掲載をお願いしたり、また「よろこび」發送の折には、「にじのいえ信愛莊」の葉と「青梅のにじ」を同封していただきました。おかげさまで、先月の運営委員会では、ご入莊の申込みや、問い合わせがありましたことが報告されました。(成松三千子)

編集委員会

長・成松三千子 (柿ノ木坂教会)
石井泰子 (小松川教会)
岸 俊彦師 (経堂北教会)
黒沢咲子 (下谷教会)
阪口和美 (神奈川教会)
鈴木功男 (目白教会)